

標 題 : Mediterranean diet and colorectal cancer risk: results from a European cohort
地中海食事と結直腸がんリスク : ヨーロッパ人コホートからの結果

著 者 : C. Bamia, et al. (ギリシャ アテネ医科大学
食品と栄養政策に関する WHO 協力センター 衛生・疫学・医療統計学部)

掲 載 誌 : Eur. J. Epidemiol. 2013 Apr; 28(4): 317-328

要 旨 :

筆者らは、地中海食事の順守と結直腸がんリスクとの関連を「がんと栄養研究に関するヨーロッパ追跡調査」で調べた。

地中海食事の順守を 10 点の尺度、修正地中海食事スコア(MMDS)およびセンター固有の MMDS (CSMMDS)で表現した。

両方の尺度は同じ食事成分を共有するが、尺度の構成でこれらの成分に使用するカットオフ値が異なる。

これらの尺度と結直腸がん発症率との関連について、調整ハザード比 (HR) を推計した。

5,296,617 人年の追跡後に、4,355 件の結直腸がん発症例が確認された。

結直腸がんリスクの 8 および 11% の低下が、それぞれ CSMMDS および MMDS の最高(6-9 点)と最低(0-3 点)の順守を比較したときに推計された。

MMDS でハザード比は 0.89 (95%信頼区間(CI):0.80-0.99)であった。

どちらの地中海食事尺度でも 2 点の上昇は、統計学的に有意の境界線上である 3 から 4% の結直腸がんリスクの低下と関連した(MMDS でハザード比 0.96; 95%CI: 0.92-1.00)。

これらの関連は女性の間でやや明白であり、主として結腸がんリスクで現れ、そして MMDS からアルコールを除外したときにその程度は変化しなかった。

地中海食事に従うことは結直腸がんリスクに対して適度な有益な影響があるであろうと、これらの研究結果が示唆している。
